

# 刑務所 災害避難所に

大規模災害の発生時、刑務所、拘留所などの「刑事施設」の一部を避難所として開放し、被災者を一時的に受け入れる態勢づくりが各地で広がっている。4月の熊本地震では熊本刑務所（熊本市）が独自判断で被災者を一時受け入れ、刑事施設では全国初の取り組みとして注目を集めた。法務省によると、これまでに岡山刑務所（岡山市）を含めた全国14施設が地元自治体と協定などを交わし、万一の時に備えている。（難波孝光）

## 岡山など14施設 自治体と協定

法務省矯正局によると、熊本刑務所は、最初に震度7を記録した翌日の4月15日から職員用の武道場を被災者に開放。ピーク時には約250人が身を寄せ、備蓄していたレトルト食品や飲料水を提供した。熊本市との間で避難所として活用する協定はなかったが、刑務所独自の判断で実施したという。

「東日本大震災後、災害時に自給できる態勢をつくるよう求めた」といい、各施設では1週間分をめどに食料や水がストックされているという。

「東日本大震災後、災害時に自給できる態勢をつくるよう求めた」といい、各施設では1週間分をめどに食料や水がストックされているという。

岡山刑務所は15年3月、

### 災害時に避難所となる全国の刑事施設



## 常備の食料や水提供

非常時に職員待機所（約230平方メートル）を提供する内容の協定を岡山市と締結した。待機所は受刑者らの生活区域と分離され、所内には和室やトイレ、シャワー室を完備し、1日50人以上の利用が可能。食料に関しては普段から受刑者約650人と職員約220人分のパンやシチュー、ハンバーグ、水を備蓄している。

岡山刑務所の場合、周辺住民の避難所だった公民館が土砂災害警戒区域に指定され、災害時に使用できなくなるため、締結した。小野誠一郎庶務課長は「刑務所の施設は耐震性にも優れている。待機所が満杯となれば隣接する職員用の武道場の提供を考えた」としている。



災害時、避難所として周辺住民を受け入れる岡山刑務所の職員待機所と武道場（右奥） 岡山市北区牟佐